
僕の心臓を君にあげる

眉クマ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の心臓を君にあげる

【Nコード】

N5028Y

【作者名】

眉クマ

【あらすじ】

空に憧れる少女クーア、翼を持つ少年ルル。

少年が十五歳になる時、父は飛べなければ彼の翼を切り落としてしまうという。

ルルの翼は、生きるために障害なんかじゃない。

少年の翼は少女にとって希望であり夢であり願いであった。

少女と少年の冒険ファンタジーのつもりです。

翼人

空を飛ぶこと。

それは、私たちの夢であり。

希望であり。

願いだった。

「ルル、行くよ」

自転車のペダルをクーアは思いっきり漕ぎ出した。

「大丈夫？・・・クーア、やっぱり無理なんじゃ」

「無理じゃない！」

自転車の二人乗り。

後ろには少年を乗せ少女は顔を真っ赤にしてさらにペダルを漕ぐ。

「島で、この坂が一番長い・・・これで最後なんだ」

父さんが言っていた。

あと5日でルルは十五歳。

その日までに彼が飛べなかったらその羽根を切り落とすって・・・

——
そんなの嫌だ。

「翼を広げて、ルル」

少年は頷くと背中に折りたたんでいた白銀の翼を広げた。

大きな翼は、彼の身長の数倍はある。

翼が風の抵抗を受けて自転車はもっと重くなるがそんなことは問題じゃない。

もうすぐ坂のてっぺん。

風を受けてルルの体が浮かび上がる。

「ルル、行って！」

少年は頷いて羽根を動かす。身体がどんどん地上から離れていく。

—— やった、成功したんだ

少女は、坂を下りながら少年が空へ登っていく姿を見た。

「クーア、やっぱり僕……！」

風が、止まった。

「ああ！」

少女は叫んだ。

少年の翼が羽ばたくのを止めたのだ。

糸が切れた凧のようにその体は下へと降りていく。

「ルル！」

叫びながら少女は、坂を下りている途中の自転車から飛び降た。

上手く着地出来ず坂を転げ落ちる。

一番下まで転げ落ち少女は、いててと飛び起きた。

すぐに辺りを見渡し少年が少し先の道端に倒れているのを見つけ駆け寄る。

「ルル、大丈夫？」

「う……」

少年は、呻いた。身体は泥で汚れているだけで何処にも怪我はないようだ。

羽根もどこも折れている様子はなく、大丈夫そうで少女は安心し息をついた。

ルルは、翼人。

島で、世界で最後の生き残りかもしれない人。

飛べない翼人なんていない。

（生きていくには翼が無い方がいい。飛べなければ邪魔なだけだ――

ルルにとってこの島で生きていくには……翼は、
障害だ）

—— 生きていくのに不自由じゃないよ。ルルの翼は障害
なんかじゃない。

少年の翼は少女の夢。

綺麗な白銀の翼が、切り落とされてしまったら少女の夢まで奪われ

てしまいそうで。
目の前が真っ暗になった。

翼人（後書き）

続きモノ。

元気な女の子クーアと賢く優しい少年ルルのお話です。
投稿はゆっくりだと思いますがよろしく願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5028y/>

僕の心臓を君にあげる

2011年11月17日19時57分発行